

と	は	出	来	な	か	っ	た	。	し	た	が	っ	て	、	J	社	勘	定	系	特	有	の	機	能	
に	関	す	る	考	慮	漏	れ	な	ど	の	懸	念	が	残	さ	れ	た	。							
1	.	2	.	シ	ス	テ	ム	の	主	要	な	品	質	目	標	と	背	景							
	当	シ	ス	テ	ム	の	主	要	な	品	質	目	標	は	、	「	朝	6	時	ま	で	に	店	舗	
統	廃	合	処	理	を	完	了	さ	せ	る	」	と	い	う	も	の	で	あ	る	。					
	当	シ	ス	テ	ム	は	、	休	日	に	動	く	の	を	前	提	と	し	な	い	。	例	え	ば	、
決	算	月	の	月	中	に	店	舗	統	廃	合	を	行	う	場	合	は	、	店	舗	で	の	事	務	
作	業	が	複	雑	に	な	っ	て	し	ま	う	。	し	た	が	っ	て	決	算	月	の	月	末	に	
店	舗	を	統	合	し	た	い	と	い	う	要	求	が	有	り	得	る	が	、	月	末	が	非	営	
業	日	で	あ	る	保	証	は	無	い	。	そ	の	よ	う	な	背	景	が	あ	り	、	週	末	以	
外	で	も	実	施	可	能	な	シ	ス	テ	ム	の	構	築	が	求	め	ら	れ	て	い	た	。		
	し	か	し	、	平	日	に	店	舗	統	合	を	行	う	場	合	、	翌	日	朝	8	時	か	ら	
の	オ	ン	ラ	イ	ン	開	始	に	間	に	合	わ	せ	る	必	要	が	出	て	く	る	。	朝	8	
時	に	オ	ン	ラ	イ	ン	開	始	を	行	う	に	あ	た	り	、	必	要	な	処	理	を	逆	算	
し	た	と	こ	ろ	、	6	時	ま	で	に	店	舗	統	合	を	完	了	さ	せ	る	必	要	が	あ	
る	と	い	う	結	論	に	な	っ	た	も	の	で	あ	る	。										

2	.	設	計	工	程	で	品	質	を	作	り	こ	む	施	策	と	確	認	活	動					
2	.	1	.	設	計	工	程	で	品	質	を	作	り	こ	む	施	策								
	私	は	、	「	朝	6	時	ま	で	に	店	舗	統	合	処	理	を	完	了	さ	せ	る	」	と	
い	う	品	質	目	標	を	達	成	す	る	た	め	、	当	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	で	は	「	朝	
5	時	ま	で	に	店	舗	統	合	処	理	を	完	了	さ	せ	る	」	と	い	う	目	標	を	掲	
げ	た	。	理	由	は	、	店	舗	統	合	処	理	の	実	行	中	に	障	害	が	起	き	た	場	
合	を	想	定	し	、	一	定	の	バ	ッ	フ	ァ	を	見	込	ん	で	お	き	た	い	と	考	え	
た	か	ら	で	あ	る	。	私	は	、	こ	の	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	目	標	を	全	メ	ン	
バ	に	周	知	す	る	と	共	に	、	品	質	を	作	り	込	む	施	策	を	伝	え	た	。	具	
体	的	に	は	、																					
	①	当	社	が	手	掛	け	た	類	似	シ	ス	テ	ム	の	情	報	を	収	集	す	る			
	②	現	在	の	勘	定	系	シ	ス	テ	ム	の	業	務	グ	ル	ー	プ	の	メ	ン	バ	を	設	
	計	レ	ビ	ュ	ー	に	参	加	さ	せ	る														
の	2	点	で	あ	る	。	①	に	つ	い	て	は	、	当	社	が	過	去	に	手	掛	け	た	類	
似	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	完	了	報	告	書	を	精	査	し	、	ま	
た	、	そ	の	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	P	M	だ	っ	た	人	に	イ	ン	タ	ビ	ュ	ー	を	

行	う	こ	と	で	あ	る	。	こ	れ	は	私	自	ら	行	う	こ	と	と	し	た	。	②	に	つ
い	て	は	、	現	在	運	用	し	て	い	る	勘	定	系	シ	ス	テ	ム	の	要	員	を	当	プ
ロ	ジ	ェ	ク	ト	に	配	置	す	る	こ	と	が	出	来	な	か	っ	た	が	、	せ	め	て	、
設	計	レ	ビ	ュ	ー	に	は	参	加	さ	せ	る	こ	と	で	、	J	社	シ	ス	テ	ム	固	有
の	考	慮	漏	れ	が	発	生	し	な	い	よ	う	に	し	た	も	の	で	あ	る	。			
	こ	れ	ら	の	施	策	を	行	っ	た	結	果	、	①	に	つ	い	て	は	、	D	B	抽	出
の	時	間	帯	を	前	倒	し	に	出	来	る	も	の	に	つ	い	て	、	前	倒	し	を	行	う
こ	と	を	設	計	時	の	標	準	と	し	て	定	め	る	こ	と	と	し	た	。	②	に	つ	い
て	は	、	週	次	で	設	計	レ	ビ	ュ	ー	を	行	う	場	を	設	け	、	現	勘	定	系	シ
ス	テ	ム	の	業	務	担	当	者	を	定	期	的	に	参	画	さ	せ	る	こ	と	で	、	勘	定
系	シ	ス	テ	ム	の	P	M	と	調	整	を	行	っ	た	。									
2	.	2	.	品	質	を	確	認	す	る	た	め	の	活	動									
	私	は	、	こ	れ	ら	の	品	質	を	作	り	こ	む	た	め	の	施	策	が	正	し	く	機
能	し	て	い	る	こ	と	を	確	認	す	る	た	め	の	活	動	を	行	っ	た	。	①	に	つ
い	て	は	、	店	舗	統	合	を	行	う	に	あ	た	り	、	更	新	が	必	要	な	D	B	を
一	覧	表	に	ま	と	め	、	そ	の	抽	出	予	定	時	刻	を	ま	と	め	さ	せ	た	。	そ

のうえで、各 DB の抽出時刻に問題が無いかを勘定系システム側に確認することにしました。例えば、勘定系システムの様として、23 時頃にバッチ更新が行われる DB を、22 時頃に抽出してしまいうことが無いかという確認である。私は勘定系システムの PM である K 氏に依頼し、K 氏からの正式回答を徵求することにしました。結果、一部の DB については、DB 更新の直前にならないと抽出出来ないことが判明したため、私は各メンバーに設計の見直しを指示した。②については、勘定系システム担当者とのレビューにおいて、出された指摘項目数を控えておくように指示した。そして指摘事項が少なかつた機能については、レビューアのスキルが足りなかつたのかを確認した。結果、一部の機能については、有識者を交えて再レビューを行った。そして、そのレビューにおいて一部の DB の更新対象レコードが想定以上に多く、後続処理を含めると、プロジェクトの目標である「朝 5

3	.	察	知	し	た	問	題	点	の	原	因	と	施	策	の	改	善	内	容	・	残	課	題		
3	.	1	.	察	知	し	た	問	題	点	の	原	因												
	私	は	、	一	部	の	D	B	更	新	処	理	に	時	間	が	掛	か	る	点	に	つ	い	て	、
現	時	点	で	の	処	理	完	了	時	刻	の	目	処	を	確	認	し	た	。	結	果	、	6	時	
を	超	え	て	し	ま	う	と	の	報	告	を	受	け	た	。	私	は	す	ぐ	に	現	シ	ス	テ	
ム	担	当	者	と	、	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	メ	ン	バ	を	集	め	、	設	計	手	順	の	不	
備	や	、	考	慮	す	べ	き	ポ	イ	ン	ト	の	漏	れ	が	無	い	か	検	証	さ	せ	た	。	
結	果	、	設	計	手	順	に	不	備	は	無	い	も	の	の	、	考	慮	す	べ	き	ポ	イ	ン	
ト	と	し	て	「	朝	6	時	以	降	に	実	施	し	て	も	問	題	な	い	処	理	が	あ		
る	」	と	い	う	こ	と	が	判	明	し	た	。	当	D	B	の	更	新	後	に	、	帳	票	出	
力	処	理	や	、	一	部	バ	ツ	チ	フ	ァ	イ	ル	の	更	新	処	理	が	予	定	さ	れ	て	
い	て	、	こ	れ	ら	も	処	理	時	間	の	見	積	も	り	が	1	時	間	程	度	と	見	込	
ま	れ	て	い	た	。	し	か	し	、	帳	票	出	力	処	理	は	、	オ	ン	ラ	イ	ン	が	開	
始	す	る	8	時	ま	で	に	完	了	し	て	い	れ	ば	良	く	、	バ	ツ	チ	フ	ァ	イ	ル	
は	、	次	の	夜	間	処	理	開	始	ま	で	に	更	新	が	完	了	し	て	い	れ	ば	良	い	
と	い	う	こ	と	が	判	つ	た	。																

論文添削結果

2011.06.09 (株) テレコムリサーチ
添削者：佐藤 創

【添削情報】

論文提出者：●●●●●様
問題 : 平成21年度 問2

【免責事項・その他】

本添削結果は、添削者個人の判断によるものであり、所属する会社や組織を代表する意見ではございません。また、本添削結果に即したからといって試験の合格を保証するものではありません。本添削結果の使用の結果生ずるあらゆる損害や被害について添削者は免責されるものとします。本添削結果の著作権は添削者に帰属します。

[目次]

1. 論文見出し構成の例
2. 論述すべき内容
3. 添削結果
4. 講評
 - (1) 添削結果の根拠について
 - (2) 講評の詳細
 - (3) 総評
5. 今後の学習に関するコメント

1. 論文見出し構成の例

以下に添削者が考える、本問題の見出し構成の例を示します。

1. 私が携わったプロジェクトの特徴
 1. 1 プロジェクトの特徴
 1. 2 システムの主要な品質目標とその背景
2. 設計工程での品質目標達成のための施策
 2. 1 品質を作り込む施策
 2. 2 品質を確認する活動
 2. 3 察知した問題点
3. 改善の内容及び成果と、残された課題
 3. 1 特定した原因と改善の内容
 3. 2 改善の成果と、残課題

2. 論述すべき内容

以下に添削者が考える、問題文から読み取れる題意と、求められる論述内容について、1. 論文見出し構成例に沿って示します。

見出し	論述すべき内容	備考
1. 1	①プロジェクトの特徴、あなたの立場、求められる要件などを明記。 ・プロジェクト概要、プロジェクト体制 ・工期、工数、契約内容、担当工程など ・プロジェクトの制約事項・条件など 以上の観点において、プロジェクト固有の条件（特徴）に焦点を当てて論述を行っていること。	
1. 2	①品質目標はなるべく具体値としてあげていること ②適切な品質目標を設定したことが伺える背景であること ⇒システムの要件や用途に無関係な品質目標でないこと	
2. 1	①施策によって品質目標が達成できるという根拠とともに、適切な施策について具体的に述べていること ②設計工程開始前に計画した施策であること ⇒設計工程に突入してから事後的に行った施策でないこと	
2. 2	①品質目標の達成に影響を及ぼすような問題点を、早期に察知するための活動内容であること ②設計工程開始前に計画した施策であること ⇒設計工程に突入してから事後的に行った活動でないこと	
2. 3	①品質目標を達成できない可能性がある（もしくは達成できないケースがある）という問題点について述べていること	
3. 1	①特定した問題の原因を分析した結果、品質を作り込む施策の不備や考慮観点の漏れが根本原因であることを突き止めていること ⇒施策の運用面や、人的側面が根本原因だという結論に至らないこと ②察知した問題と、特定した原因の論述内容が矛盾していないこと ③特定した原因に相応しい改善内容であること	

3. 2	①改善によって良い効果があったことを述べていること ②残課題の内容が、これまでに述べてきた内容と因果関係があり、かつ矛盾していないこと ⇒改善施策でも取りきれなかった残課題、または改善施策によって新たに発生した課題などについて、論理的に矛盾なく述べられていること	
------	---	--

本問題は、誰にでも近い経験があるという点で書きやすい問題だといえます。注意するポイントとしては、論文全体を通して、「品質目標」、「品質を作り込む施策」、「品質を確認する活動」の3つの関係が常にはっきり分かるようにすることです。何のための「品質を作り込む施策」なのか、何のための「品質を確認する活動」なのか、というところを、常に「品質目標」と関連させて論述することが必要だと思います。

3. 添削結果

添削者が考える論文評価結果を、A～Dランクに分けて示します。合格はAランクのみです。

評価ランク	内容	判定
C	内容が不十分である	不合格

※A～Dランクの評価内容は以下の通りです。

- A：合格水準にある
- B：合格水準にあと一步である
- C：内容が不十分である
- D：出題の要求から著しく逸脱している

添削者が考える、各種の詳細な評価項目について、それぞれA～Dランクを示します。

評価項目	評価基準	評価ランク	内容
題意の適切な盛り込み	設問や問題文で求められる題意が適切に盛り込まれていること	C	内容が不十分
論理性	論述に根拠があり、論理的な内容になっていること <ul style="list-style-type: none"> ・ 行動や考えの背景として、経験や知識、分析結果に裏付けられた根拠が論述されていること ・ 行動した結果やプロジェクトの顛末を書いただけの論文になっていないこと ・ 論述が、具体的・定量的で、かつ論理的であること 	B	合格水準にあと一步
プロマネの創意工夫	プロジェクトマネージャとしての創意工夫・判断基準が盛り込まれていること <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトマネージャらしい総合的な考え方（創意工夫）を論述していること ・ プロジェクトマネージャの役割や責任を理解した上で、適切な行動等について論述していること ・ 専門用語などは本来の意味や目的を理解して用いていること 	A	合格水準にある
文章表現	文章表現が適切で、かつ理解しやすい文章であること <ul style="list-style-type: none"> ・ 論文としてふさわしい文章表現であること ・ 文章の内容が理解しやすいこと ・ 助詞などの用法に誤りがないこと ・ 誤字脱字がないこと 	A	合格水準にある

4. 講評

添削者が考える講評について示します。

(1) 添削結果の根拠について

評価ランクがCである理由（概要）は以下です。
詳細の説明については、(2) 講評の詳細 に記載します。

1. 題意の適切な盛り込み

おおよその題意は理解されており、題意に近い論述展開はできていたと考える。しかし、本来論述を求めている題意と微妙なずれがある。イメージとしては、題意にストレートに答えて論述するのではなく、題意を少し避け、その横を論述した箇所があったと感じる。もう少し題意に対してストレートな論述展開を望む。この点で評価は低くなってしまった。ただし、論述スタイルとしては、プロマネの考えや行動を中心に論述を展開しており、その点は評価できると考える。プロマネが何を考え行動したのかが読み手に伝わる内容であった。そのため「プロマネの創意工夫」については特に問題はなかったと考えている。

- ① 1. 1 節は、プロジェクトの特徴という観点から、内容を編集してほしい。
- ② 品質を作り込む施策において、品質を確認する活動（レビュー）について述べてしまっている。
- ③ 察知した問題点や、問題点の原因の論述において、実際には対処が不要であった問題について取り上げている。
- ④ 品質目標の達成が阻害される問題の発生に対して、品質目標を達成せずとも良いという結論で論述してしまっている。

2. 論理性

論述内容に具体性が欠けているために、プロマネの考えや経験を文面から適切に読み取りにくいと感じた箇所がいくつかあった。

- ① 品質目標は「○時間以内での統廃合処理完了」などというように分かりやすく述べてほしい。
- ② 品質を作り込む施策において、過去プロジェクトの情報を集める観点が具体的ではない。また、この施策によって品質目標が達成できると考えた根拠が論述されていない。
- ③ 残された課題において、段階的な品質目標の定義という内容を述べているが、論述内容に疑問点が残る。

3. プロマネの創意工夫

プロマネの考えは随所に記載されており、プロマネの存在感のある論述であったと感じる。このように、プロマネの考えをベースに論述を構成するスタイルについては問題なかった。

4. 文章表現

丁寧に論述されており、特に問題はなかった。

以下に詳細の講評と、総評を示します。

(2) 講評の詳細

詳細講評については、論文の流れに沿って設問アから順に説明させていただきます。説明の内容が、(1) 添削結果の根拠 のいずれに相当するのかを各説明に示します。ただし、文章表現に関する指摘は最後にまとめて行います。

なお、講評中で例文を示すことがありますが、あくまでも参考までとして頂ければ幸いです。例文をそのままご利用されること自体には全く問題はございません。それによる「文字数の配慮」、「論文の流れとの整合性」等々につきましては十分ご考慮いただけますよう、宜しくお願い申し上げます。

(ア) [評価項目：題意の適切な盛り込み 指摘番号：①]

「1. 1プロジェクトの特徴」では、論述の対象とするプロジェクト固有の事象や制限事項などに着目して論述を行って頂きたいと思いました。

本論文では、システム概要、プロジェクト概要がほとんどの文面を占めておりました。メンバ構成についてはプロジェクト固有の問題であり、プロジェクトの特徴からの論述であったので問題はないと思います。内容を変更せずとも多少の編集をすることで、プロジェクトの特徴からの論述ができるかと思えます。

例えば、「本プロジェクトの特徴としては、第一に短時間での統廃合処理の完了を求められている点である。銀行の統廃合はビジネス環境の変化の速さから、即日システムにも反映させることが求められている。そのため、統廃合処理の処理速度の向上や、効率的な処理実行手順について検討することが必要であった。第二に、現在運用中のJ社勘定系システムのメンバを割当てることができなかった点である。今回のプロジェクトメンバは、過去に他の勘定系システムを担当したメンバではあるが、J社勘定系システムの経験はない。したがって、J社勘定系特有の機能に関する考慮漏れなどの懸念が残された」といったように編集することができるかと思えます。

以上のように、システムの特徴やプロジェクト概要などの背景が、どのような形でプロジェクトの特徴として表出しているかをプロマネの視点で捉えて、適切に表現することが本節では求められております。この他にも論述対象となる内容に関連する特徴などがあれば、その点をクリアアップして論述することで、より題意に沿った論文になると思えます。

念のため、IPAの論文講評を以下に引用します。現行試験制度では、設問アでは「プロジェクトの特徴」を述べさせるようになっております。旧試験制度では、プロジェクトの概要などを淡々と述べればよかったです。現行の試験制度になってから、この点が変わりになりましたので、意識的に設問アの論述内容を変えていく必要があります。

「各問に共通した点として、設問アではプロジェクトの特徴に対して、プロジェクトの概要やシステムの特徴についての論述が多かった。また、設問の趣旨に沿わず、問われていないことを記述する論述も散見された。求められているのは、プロジェクトに関するPMの視点からの論述であることをしっかり認識してほしい」

(出典：IPA Webサイト 平成22年度春季 プロマネ試験 採点講評)

(イ) [評価項目：論理性 指摘番号：①]

「1. 2システムの主要な品質目標と背景」において、品質目標が「朝6時までに店舗統廃合処理を完了させる」となっておりますが、何時から朝6時までに処理を終えないと

いけないのか、許容時間の絶対値が見えませんでした。そのため「オンライン処理が終了する夜20時から朝の6時までの10時間」などのような表現で、絶対値が分かったほうがよろしいかと思えます。

もちろん他のバッチ系処理との兼ね合いで、すべての統廃合処理を20時から開始することはできない可能性もありますが、それでも漸次処理を行うことになると思いますので、表現としては絶対値で示していても問題はないと思います。

実際に品質目標として共有するためには、誰から見ても誤解しない明確な数値目標としておくことが大切だと思います。論文では、適切な品質目標が設定されていることも評価対象ですので、品質目標としてプロジェクトメンバーで共有できる客観的な数値目標であるかどうか大切な視点であると思います。

この点につきまして、ご確認をお願い致します。

(ウ) [評価項目：題意の適切な盛り込み 指摘番号：②]

「2. 1 設計工程で品質を作り込む施策」において、レビューについて論述されております。レビューは「品質を確認する活動」に相当しますので、本節ではなく、2. 2 節にて論述を行うことが適切だと考えます。

本論文の2. 2 節では、レビューについても触れられておりますが、一旦内容を見直して頂き、レビューの工夫や狙いなどについて論述を行って頂きたいと思えます。

論述する上では、「品質目標の達成に影響を及ぼすような問題を早期に察知」できるための工夫を論述して頂きたいと思えます。「早期に問題を察知する」というということは、以下の2つの観点からレビューを運営することだと考えられます。

- (1) 設計工程の早い時期に問題を察知できるための工夫
- (2) レビューでの指摘漏れを防止することで、問題が後工程に流出しないように察知するための工夫

(1) の観点であれば、例えば設計書の完了時まで待たずに、機能単位でピアレビューを行う、という施策も考えられます。また、そのレビューに専門家をアサインすれば(2)の観点からも対策を打ったことになるかと思えます。または、レビューでの不具合密度(指摘密度)について、重点的にチェックすべき箇所は、プロジェクト標準指標よりも高い値を設定することで、バグや不具合を漏れなく見つけ出せる効果を期待することもできるかと思えます。

以上のように、「できるだけ早期に問題を察知」するための工夫をもう少し論述していたら、なお良い論文になるかと思えます。

この点にご留意を頂き、2. 1 節のレビューに関する論述と、2. 2 節の全体の論述を見直して頂きたいと思えます。お手数とは存じますが、ご検討頂けますと幸いです。

(エ) [評価項目：論理性 指摘番号：②]

「2. 1 設計工程で品質を作り込む施策」において、過去プロジェクト情報の収集を行うことが述べられております。しかし、この情報収集の観点や目的が具体的には述べられておりませんでした。また、情報収集を行うことで、なぜ品質目標を達成できると判断したのか、その根拠についての論述も不足していると感じます。この結果、プロマネが有効な施策を打ったことが文面からは判断することができなくなりますので、論文の評価も低くなってしまうと考えます。まずは、何のために情報収集をしようと思ったのか、そしてそれをどのように活かすことで設計品質が向上すると考えたのか、といった点を論述して頂きたかったと思えます。

また論文では「DB抽出の時間帯を前倒しにする」という点が述べられております。ま

ず、「DB抽出」が統廃合処理の中でどのような位置づけにあるのかの説明が必要だと思えます。例えば、「銀行統合時は、統合される側の店舗情報をDBから抽出し、統合する側の店舗のDBへ結合する手順となる。DBの量は膨大であり、統合処理全体の約4割の時間がDB抽出処理にかかる」などの一文で構いませんので、DB抽出処理がどのような位置づけなのか、そして、なぜ統廃合処理のうちのDB抽出処理に着目したのか、その理由も含めて論述をすることが必要ではないかと思えます。

次に、DB抽出の前倒し施策だけで、品質目標を達成できると考えた理由についての論述を追記して頂きたいと思えます。DB抽出の前倒しによってどの程度の改善が見込まれ、それによって品質目標の達成ができるのかどうか、といった点について、プロマネがどのように判断したのかを、具体的に論述して頂きたいと思えます。

以上の観点から論文を作成することで、プロマネが具体的にどのような目的で施策を行ったのか、またその改善効果はどの程度を見込んでいるのか、それによって品質目標を達成できると判断したのかどうか、といった点をすべて論述できるようになります。そうすれば、読みに手に対して説得力のある論述展開ができますので、評価も高くなると考えます。

この点につきましてご確認をお願い致します。

(オ) [評価項目：題意の適切な盛り込み 指摘番号：③]

「3. 1 察知した問題点の原因」や「3. 2 施策の改善内容」においては、問題の発生によって品質目標の達成が阻害されると考えられる問題について、どのように対処を行ったのかを述べることが求められております。

これに対して本論文では、3. 1 節で述べた問題点は、実際には対処が不要であったと述べられております。その後、3. 2 節においては見積り時間が品質目標を達成できていないという問題が検出されたと述べられておりますので、こちらの問題（対処が必要であった問題）をクローズアップして3. 1 節に述べて頂きたかったと思えます。対処が不要な問題については、本論文で求める内容ではありませんので、修正が必要ではないかと考えます。

(カ) [評価項目：題意の適切な盛り込み 指摘番号：④]

「3. 2 施策の改善内容」において、品質目標を達成できない問題に対して、コンティンジェンシープランを充実させる対処を行ったことが述べられております。実際のプロジェクトの現場では、このような判断はベターであり、費用対効果的に考えても特に問題はないかと思えます。しかし本論文では、品質目標を達成するように、品質の作り込み施策を改善するというストーリーで論述することが求められております。「品質目標の達成のためにどのように工夫したか」を述べるのが本論文ですので、記載されているように品質目標が達成しないケースを一部許容するというストーリーでは題意を満たしていないと考えます。

実際に、品質目標を達成できない原因は、設計標準や品質を作り込む施策に帰結させることはできると思えます。品質を作り込む施策が不十分であったために、品質目標が達成できなかった、と考えることはできるからです。ですから、本来述べるべきストーリーとしては、問題の原因を明らかにした後、品質を作り込む施策の不十分な箇所（漏れがあった箇所）を特定して改善し、品質目標を達成する、という内容だと考えます。

ストーリー展開を変更する大変な修正かとは思いますが、本問題の題意に素直に対応した論述展開をして頂けますと、論文の評価も高くなると考えますので、ご確認を宜しくお願い致します。

(キ) [評価項目：論理性 指摘番号：③]

「3. 3 残された課題」において、「段階的な品質目標の定義」を挙げておりますが、この内容に関して疑問が残りましたので、指摘をさせていただきます。

疑問が残った点は、本システム開発は段階的な稼動を前提としておりませんので、段階的な品質目標を設定したとしても、当初の品質目標（5時までに完了）が変化しないのではないかと、ということです。

初回の統廃合処理では、想定していなかった処理不良などが発生するリスクはありますので、休日に実施するという対応は適切だと思います。ただし、2回目以降の統廃合処理を行う場合でも、システム自体の再リリースは行わないと思いますので（軽微な不具合の修正はあると思います）、システム開発時の品質目標としては、やはり当初から5時までの統廃合処理の完了を目指さなければならず、品質目標に変化はないのではないかと考えます。

もし、初回の統廃合処理は休日に行い、その結果を踏まえて段階的にシステムを開発し、処理の高速化や処理手順の最適化をして、2回目以降の統廃合処理向けにリリースをしておす、というのであれば理解ができるかと思えます。

本論文を読む限りでは、そのあたりの背景が明確には述べられておりませんでしたので、判断を行うことができませんでした。この点について追記等のご対応をお願いしたいと思います。

次に、本プロジェクトにおいて、なぜ「段階的な品質目標の設定」をすることが適していたのか、その理由が読み取りにくいと感じました。今回のプロジェクトでどんな問題や課題があったために、今後は「段階的な品質目標の設定」をすれば良かったと考えたのかが読み取れませんでした。今回のプロジェクト運営の経験にマッチした、適切な課題を抽出していることが読み取れるように、追記等のご対応をお願いしたいと思います。

(3) 総評

以下に本論文を振り返り、良かった点や指摘のまとめをさせていただきます。

設問アの 1.1 節は、内容自体は問題ございませんが、「プロジェクトの特徴」という観点から見直して頂けると、より題意に即した論文になるかと思えます。1.2 節では、品質目標をより客観的な数値として示して頂きたいと思いました。その他の点については特に問題はなかったと思えます。

設問イでは、2.1 節に「品質を確認する活動」であるレビューについて論述が行われておりましたので、この論述を 2.2 節で行って頂きたいと思えます。また、「品質を作り込む施策」についても具体的な論述が不足しておりましたので、その点を充実させた論述が必要だったと感じました。

設問ウの 3.1 節では、対処が不要な問題について論述されておりましたので、この問題の内容は削除し、対処が必要だった問題について論述を行って頂きたかったと思えます。3.2 節は、品質目標を達成できない原因を「品質を作り込む施策」に帰結させ、施策を改善することで品質目標の達成ができる見通しとなったという内容の論述を望みます。3.3 節では、改善点を挙げた背景や理由について、もう少し具体的な論述を行って頂きたいと思いました。

5. 今後の学習に関するコメント

題意についてはおおよそ理解をされているのではないかと思えますが、細かいところで題意から外れてしまっておりました。まったく題意から外れているわけではないので、もう少しだけ、題意に対して素直な論述展開をして頂けるとよろしいかと思えます。

また「品質を作り込む施策」の箇所のように、論述内容が表面的で具体性に欠ける箇所がありました。もう少し深く掘り下げて、具体的な論述を行いませんと、プロマネの判断や考えが適切であったのかどうかを文面から読み取ることができなくなってしまいます。

文章表現や、論述のスタイルにつきましては、このままで問題ございません。プロマネの考えや行動をベースにして論述を行って頂いておりますので、評価できると思えます。

以上、添削結果のご確認の程よろしくお願ひ申し上げます。
ご不明点などございましたらお気軽にメールにてご連絡を頂けると幸いです。

以上